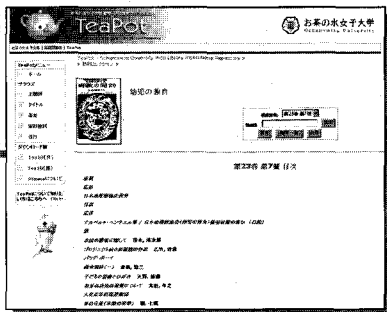


▶『幼児の教育』ネット公開に寄せて (7)

公開システム構築と運用の立場から

茂出木理子



お茶の水女子大学附属図書館のWEBサイト内の「お茶の水女子大学教育・研究成果コレクション（略称 TeaPot）」にてバックナンバーインターネット公開中。
URL : <http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/>

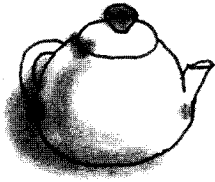
▼はじめて

私は『幼児の教育』のインターネット公開システム「TeaPot」の担当責任者であり、お茶の水女子大学附属図書館に所属しています。これまでの連載で紹介されているとおり、平成二十年六月から『幼児の教育』のバックナンバーが順次、インターネットで公開されるようになりました。平成二十一年三月末現在で、「TeaPot」では、『幼児の教育』の創刊号（明治三十四年）から、第五十二巻（昭和二十八年）までの一万二千二百点の論文などを、PDFファイル形式で公開していますが、公開以来十か月以内に、一万回を超える論文利用（PDFファイルのダウンロード）がありました。

「TeaPot」は、正式名称を「お茶の水女子大学教育・研究成果コレクション」といい、お茶の水女子大学が関連する教育と研究の成果を電子化、データ

ベース化し、インターネットを通じて、世界に発信するための仕組みです。お茶の水女子大学の前身である東京女子師範学校は、わが国最初の女性のための高等教育機関として、明治八年十一月二十九日に開校しました。以来、百三十年以上にわたり、数多くの優れた女性教育者、研究者を輩出し、多岐にわたる分野で多くの卒業生が活躍しています。この百三十年間の教育と研究の成果を恒久的に蓄積し、発信していくシステムが「Tea Pot」です。

「Tea Pot」の命名は、図書館の若手スタッフが中心となり考えましたが、お茶の水女子大学の「お



茶」からTeaをとり、ティーポットのように教育と研究成果を注ぎだすイメージから名づけたものです。

また、お茶の水女子大学では「Tea Pot」と並行して、開学以来のさまざまな歴史的な資料を「お茶の水女子大学デジタルアーカイブズ」として、ネット公開しています。このアーカイブズも、私たち図書・情報チームの担当ですが、「幼児の教育」と併せて充実したアーカイブズに育てていきたいと考えています。

▼「幼児の教育」電子化公開の経緯について

次に「幼児の教育」の電子化公開に関する経緯を少し紹介したいと思います。

平成十九年六月、「幼児の教育」編集委員会の編集主幹である、お茶の水女子大学の浜口順子准教授から「幼児の教育」の電子化について相談の電話が図書館に入ったのが始まりでした。ちょうど、図書館では、

「Tea Pot」の構築を開始した時期で、お茶の水女子大学が発信すべき学術資料を探していた時期でした。このことは、互いにとって、非常にタイミングがよかったと言えることでした。

早速、「幼児の教育」の編集委員会（以下編集委員会）と、図書館のスタッフの間で打合せをもち「幼児の教育」を電子化し、公開するに当たって、クリアすべき案件の整理を行いました。

いちばんの案件は出版社に了解を得ることでした。この部分については、編集委員会が引き受けることになり、早速、交渉を進めました。そして、八月には、出版元のフリーベル館からの了解を得ることができ、十一月には、「幼児の教育復刻版」についても版元の名著刊行会から了解を得、予想以上のスピードで進展しました。併せて、編集委員会は、著者から許諾を得る作業を進めました。

この間、図書館側では、データベース構築にあたっ

ての技術的、書誌的な解析を進めました。そして十二月から、実際の電子化作業に入ることができました。

最近の資料とは異なり、原本が非常に希少な資料群であったため、電子化作業に当たっては、慎重の上にも慎重を期しました。そのため、予定以上に時間がかかりましたが、平成二十年六月に一万件を超えるデータを一気に「Tea Pot」に登録することができ、最初に話があつてから、ちょうど一年後に、ネット公開をスタートすることができました。他大学での事例と比較しても、この量と内容と公開開始までのスピードは、素晴らしいものがあつたと自負しています。なお、一万件を超えるデータを一気に登録することについては、お茶の水女子大学情報基盤センターの浅本紀子センター長、佐藤祐子講師、そして、大学院生の大西さんに多大なご協力をいただきました。

打合せの当初から、編集委員会は「表紙から裏表紙まですべてを丸ごと電子化したい」という希望でし

た。これもほかの学術雑誌の電子化などではあまり例を見ないことです。学術雑誌では、個々の論文単位で電子化するのが、普通行われているスタイルですが、本誌五月号で国吉先生が述べているように、「幼児の教育」は個々の論文内容だけではなく、表紙から裏表紙に至るまでの総体としての雑誌の魅力にあふれている点に価値があるということを、改めて学びました。併せて、表紙は、ぜひカラーで電子化したいという強い希望でした。当初、これも他の資料ではなかったことなので、正直、戸惑いも感じましたが、できあがったものを見て、これはカラーでなければ価値がなくなってしまうのだということを実感しました。このような、ほかの学術雑誌の電子化では、経験できなかつたようなことを、われわれも学びました。

最初に述べたとおり、「Tea Post」は、インターネット上の書庫のような働きをするシステムです。この書庫の特徴は、いつでも、誰でも自由に無料

で読むことができるということです。現在、日本国内で、同様の取り組みを実施している大学や研究機関が九十機関ほどあります。この取り組みを支援しているのは、全国の学術研究機関のネットワークを推進している国立情報学研究所（NII）という機関ですが、NIIでは、「最先端学術情報基盤整備（CSI）」事業の一環として、次世代学術コンテンツ基盤共同構築に向けた委託事業を実施しています。お茶の水女子大学は、この事業公募がスタートした平成十八年度から、平成二十年度まで三年間連続で申請が採択されています。

▼電子化公開の意義と効果について

現在、「Tea Post」には、「幼児の教育」をはじめ、お茶の水女子大学の紀要誌や文教育学部舞踊教育学講座の創作舞踊の動画、静止画などの電子化資料が約一万八千点登録されています。この数は、前述の同様の

取り組みを行っている機関の中でもトップ8に入る数値です。小規模な国立大学としては、非常に健闘している数字で、他大学からも注目されていますが、それは、『幼児の教育』という特徴ある資料を創刊号から登録させていただけたという要因が大きいです。

『幼児の教育』の電子化公開の第一の意義は、創刊号までさかのぼって、表紙から裏表紙まですべてを電子化し、公開したという点です。多くの方が指摘しているとおり、総体としての『幼児の教育』を電子的に保存し、インターネットで利用できるようになったということは、利用するほうにとっても、また資料を保存することを一つの使命にしている図書館にとっても、大きな意味があります。図書館では、創刊号からの原本を大切に保管してきましたが、それでも、経年劣化はどうしても避けられません。資料の永久的な保存に對して、電子化することがすべての解決策ではありませんが、電子化し、インターネット公開することで、

原本の直接利用による物理的な劣化を防ぐことが少しでもできるようになりました。

また、インターネットというツールにより、遠隔地においても自由な時間に資料を利用できる点に意義があります。実際、利用統計データを分析しますと、国内だけでなく、海外（アメリカ、中国、韓国など）からの利用が全体の15%ほどあることがわかりました。検索機能については、後述しますような不備、あるいは、ピンポイントでしか論文を読まなくなることに対する危惧などもあります。それでも、便利な機能であることは実感できていると思います。

▼ネット公開後にいただいたご意見、改善提案について

ネット公開後に、多くの方にご利用いただいたことに並行して、いろいろな意見、改善提案をいただきました。システム上のことでいえば、以下の三点に集約

できます。①新旧漢字のこと。特に、検索が不便であることについて。②「雑録」のこと。複数の著者による複数の記事からなる欄であるが、個別の著者名や記事名のデータが入っていないこと。③一冊まとめて通覧できる仕組みになっていないこと。この三点については、早速、改善を加えつつあります。

まず①新旧漢字の問題に関しては、古い日本語の資料をデータベース化する際には、必ず問題となる点ですが、「Tea Pot」では、次のような方策を採りますが、すなわち、原本の雰囲気を壊さないように、旧字で書かれていたタイトルは、そのまま旧字で登録しますが、検索の便を考慮し、よく使われる約四百文字を対象に新字によるタイトルを補助的に検索用タイトルとして入力します。ただし、人名に関しては、オリジナルな字体で記されていることが重要だと考え、対応から外しました。

次に②初期の雑録については、含まれているすべて

の著者名と記事名を追加で、データベースに入力します。著者名、記事名からの検索が可能になり、また目次ページでも個々の記事名が確認できます。

最後の③「一冊まとめて通覧したい」というご要望に関しては、データ容量が重たくなる点が危惧されますが、個々の論文等のPDFデータとは別に、一冊まるごとのデータも作成し、登録することにしました。

最後に、今回の電子化および公開にあたって、お茶の水女子大学、「幼児の教育」編集委員会、フレーベル館をはじめ、多くの方々の力により、膨大な量の論文が短期間の間に公開できましたことを、改めてお礼申し上げます。今後も「Tea Pot」からのネット公開が多くの関係者の皆様のお役に立ちますよう、データの整備を進めていきたいと考えています。どうぞお気づきの点がございましたら、ご意見をいただきますようお願いいたします。

(お茶の水女子大学 図書情報チームリーダー)